

小学校高学年向け製品安全ワークブック

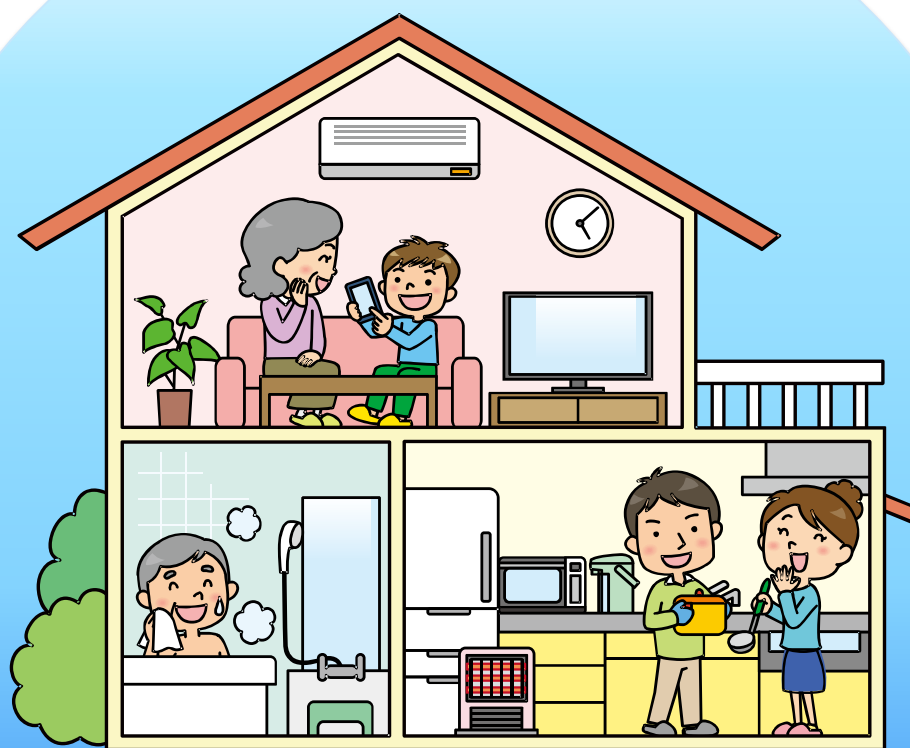
2016年改訂版



安全な生活を求めて（製品安全教育）

# 目指せ！製品安全リーダー

製品安全について考えよう



年

組

名前

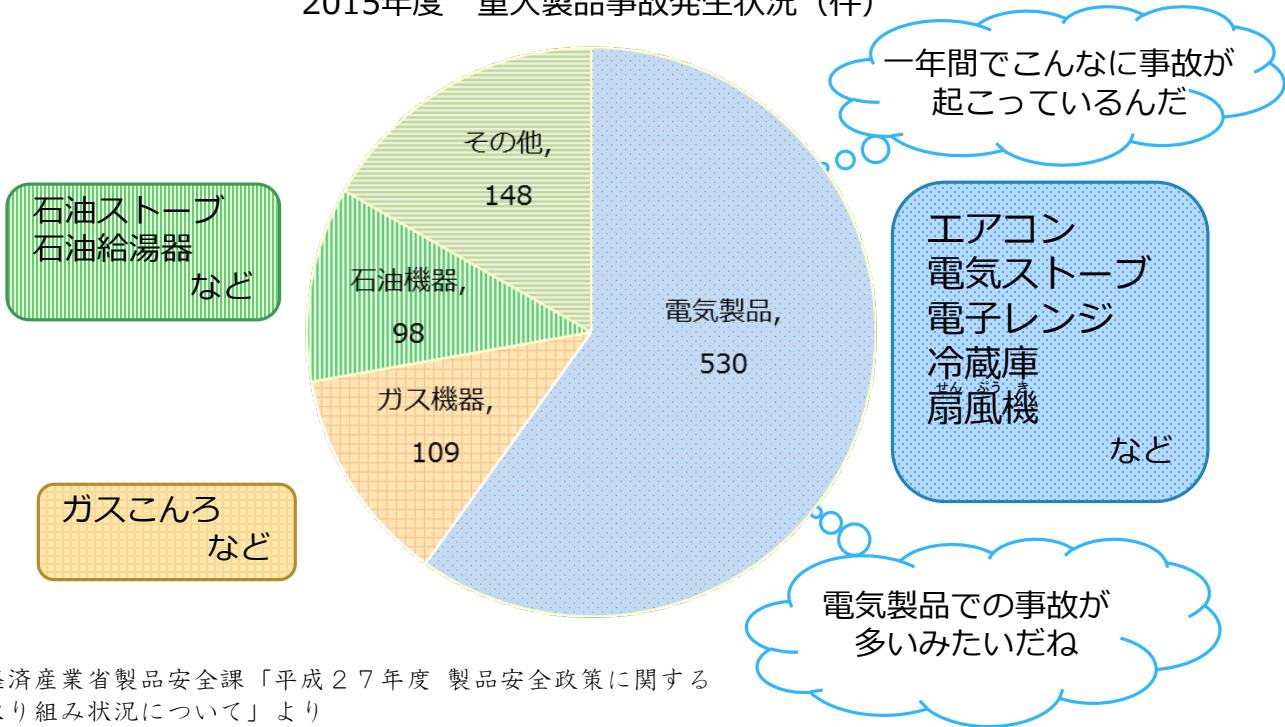
# 身の回りの「製品」に目を向けよう

わたしたちの身の回りには生活を便利で楽しくする「製品」があふれています。テレビも、エアコンも、ドライヤーも、携帯電話も、自転車も、おもちゃも、みんな「製品」です。

## 製品によって起きる、さまざまな事故

でも、実は、その製品によって、いろいろな事故も起きているのです。火事になったり、人が大けがをしたり、命を落としたりしてしまうこともあります。（そのような事故を重大製品事故と呼びます。）

2015年度 重大製品事故発生状況（件）



経済産業省製品安全課「平成27年度 製品安全政策に関する取り組み状況について」より

具体例①：扇風機が燃えました。

- 30年以上使っていた扇風機の内部から火が出て、とけたプラスチックが、ぎぶとんに落ちて火が着きました。
- ❗ 扇風機の部品が古くなったために、故障（劣化）して発火したことが原因です。
- ❗ 製品にも寿命があります。内部の部品が古くなると、発火することがあります。



出典：製品評価技術基盤機構（NITE）HP【再現実験】

# なぜ事故が起きるのでしょうか

具体例①のような事故はなぜ起こってしまったのか、どのようなことに気をつければよいかを考えてみましょう。

具体例②、③、④についても考えてみましょう。

## 具体例②：電源コードから出火しました。

- 電源コードの周辺の掃除をしていなかったため、プラグとコンセントの間にほこりがたまっていました。そこに電気が流れてついには燃え出しました。（トラッキング現象）



トラッキング現象とは、プラグとコンセントの間にたまったほこりや湿気によって電流がながれ、火花が発生する現象です。電源をOFFにしても発生することがあり、火災の原因にもなります。



出典：製品評価技術基盤機構（NITE）HP【再現実験】

## 具体例③：ガスこんろのグリルから出火しました。

- 魚焼き用のグリルを掃除していなかったため、グリルの受け皿に魚の油がたまっていました。
- グリルに火をつけたまま、その場をはなれてしまったところ、たまっていた油の温度が高くなり、ついには燃えだしました。



たまった油を掃除しなければならぬことが、製品の説明書に書かれていませんでした。



出典：製品評価技術基盤機構（NITE）HP【再現実験】

## 具体例④：ボタン電池が破裂しました。

- 使い終わったボタン電池をたくさん袋に入れて置いておいたら、ボンという音がして破裂しました。



電池と電池がぶつかって、電流が流れつづけると、破裂します。



電池内部の液体が目に入ると、目が見えなくなる危険があります。

# 主な事故原因として以下のようなものがあります

## ア) 正しい使い方をしなかったことが原因となった

- 干していた洗濯物が石油ストーブの上に落ちて燃えた。
- 洗濯機の回転が完全に停止しないうちに手を入れたために、洗濯物に指が巻きこまれてけがをした。

## イ) 長く使って古くなったことが原因となった

- モーターが古くなり回らなくなってしまったために温度が上がり、燃え出してしまった。
- 古いなべでわかしたお湯をこぼして捨てようとしたところ、ゆるんでいた取っ手がとれてしまい、やけどをした。

## ウ) 製品の説明書や表示に問題があった

- 説明書や製品に高温になる部分が表示されていなかったため、手をふれてやけどした。

## エ) 製品そのものに原因があった

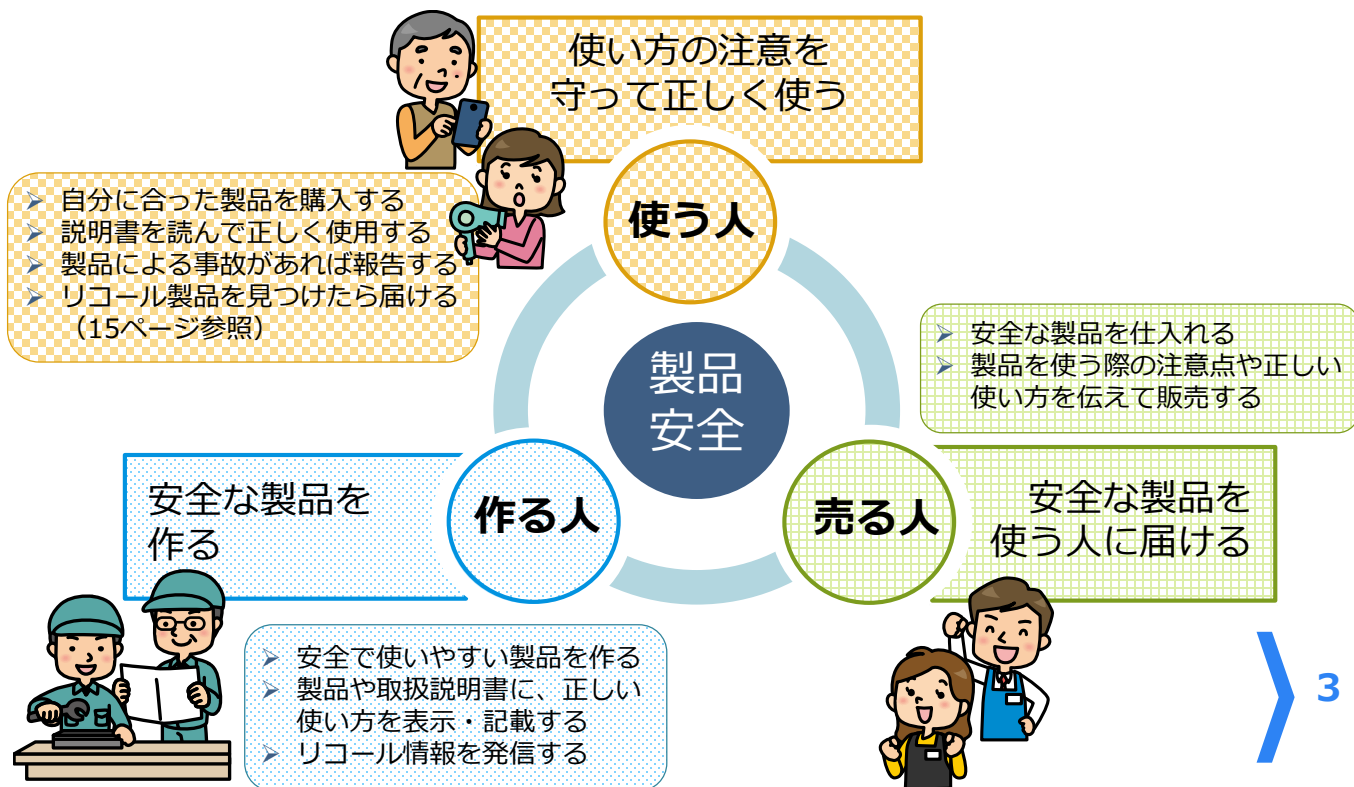
- おもちゃの角がとがっていたために、遊んでいるときに手を切ってしまった。
- 製品に使用された部品に問題があり、使用中に高温になって発火した。

## 製品の事故を防いで、安全に使用するためには

どうしたら、製品を安全に使用することができるでしょう。

安全に作られた製品でも、正しくない使い方をすれば事故が起きるかもしれません。正しい使い方をして、製品が安全でなければ事故が起きるかもしれません。また、売る人が使う人に正しい使い方を説明しないと事故が起きるかもしれません。

製品を安全に使用するためには、製品を「作る人」、「売る人」、「使う人」のそれぞれに役割があります。みんなが役割を果たすことで、事故を起こさず使うことができるようになるのです。



# 安全のために、人々にはどのような役割があるでしょう

## 製品を作る人

製品を設計・製造している会社  
(設計するとき・製造するとき・説明するとき)

 5ページ

製品を作る人はどのようなことに気をつけて作っているでしょうか。

## 製品を売る人

製品を売っている会社やお店  
(仕入れるとき・説明するとき・販売するとき)

 7ページ

製品を売る人はどのようなことに気をつけて売っているでしょうか。

## 製品を使う人

みなさんと家族  
(購入するとき・使用するとき・点検・<sup>はいま</sup>廃棄するとき)

 9ページ

製品を使う人は、どのようなことに気をつけて使えばよいでしょうか。

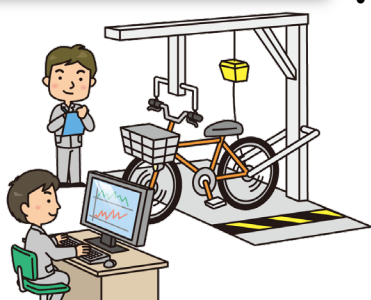
# 「製品を作る人」の役割

## 設計する



- だれが、どのような場所で、どのように使うかを想定して、作る製品を考えます。
- 最新の技術を利用して**安全で使いやすい製品**を設計します。
- 設計するときには、製品にどのような危険があるかを考えて、危険を防ぐための仕組みを考えます。

## 製造する



- 設計したとおりに製品を製造するための書類（指示書）に従って、製品を製造します。
- 製造された製品が安全になっているかを、様々な検査により確認します。**安全性を確認**できた製品には、安全を表すマーク（12ページ参照）を表示します。

## 説明する

- 安全に使ってもらうために、正しい使い方や注意すべきことを製品や説明書に**「使う人」にわかりやすいように表示・記載**します。
- 正しい使い方や注意すべきことを**「売る人」にも説明**します。

## リコールする

- 製品に問題があることが見つかった場合、「作る人」はリコール（15ページ参照）を行います。

## 「作る人」の役割は？

- 安全で使いやすい製品を考え、使い方の注意点を表示し、使う人が安心して使える製品を作ることです。

調べてみよう



13ページ『注意表示・警告表示を探そう!』

- ◆ 「作る人」が使い方の注意点について、製品にどのような表示をつけているか調べてみましょう。

# 安全な製品の作り方

製品を作る会社の中では、どうやって製品の設計を行っているのでしょうか。

## 社内会議「新しいおもちゃの消防車を作ろう！」

最新モデルの消防車のおもちゃを作ろう！  
はしごを動かせるようにして、見た目もカッコよくしたいな。サイレンも鳴るようにして、ランプも光るようにしたいね。

おもちゃの安全を表すマークをつけたいな。安全に作られているかどうか、検査を受けよう。



対象年齢のルールを守らないとね。

からだに悪い塗料（とりよう）は使っていないかな。

やっぱり安全に使ってもらうのが一番だね。

小さな部品を飲み込んで、のどにつまらせるようなことはないだろうね。

動くところに、指をはさまれることはないかな。

とがっているところにぶつかると、ケガをしそうだよ。



## 新製品発表会

6歳以上を対象にした最新モデルの「おもちゃの消防車」を発表します。サイレンやランプなどをつけて、さらに楽しく遊べます。

検査に合格したので、おもちゃの安全を表すマークをつけました。

表示されている対象年齢を守ってください。

【売る人】  
からだに悪いえいきょうがある塗料（とりよう）は使用していませんか。

説明書を読んで、安全に使ってください。



動くところには、指がはさまらない仕組みを設けています。

【売る人】  
けがをするようなところはありませんか。

## 考えてみよう

- ◆ 実際に開発された製品には、安全のために、どのような工夫がされたのでしょうか。

# 「製品を売る人」の役割

## 仕入れる



- お店で売る製品を、「作る人」から買います。これを“仕入れ”といいます。
- “仕入れ”る製品を選ぶときには、製品の**機能だけでなく安全も考えて選びます**。
- “仕入れ”る製品に安全を表すマーク（12ページ参照）は付いているか、お店の安全のきまりを守っているかを調べます。

## 説明する

- 製品を買うお客様（＝「使う人」）に、**製品の正しい使い方**や**注意点**などについて、実際の製品、説明書、カタログを見せながら説明します。

## 販売する

- お客様（＝「使う人」）に製品を販売します。
- 購入したばかりの製品に問題があった場合（**初期不良**）に修理や交換などへの対応をします。



## 「売る人」の役割は？

- 安全な製品を仕入れて、「使う人」に正しい使い方を説明して売ることです。

調べてみよう



13ページ『注意表示・警告表示を探そう!』

- ◆ 学校やお家にある製品に、安全を表すマークが表示されているか調べてみましょう。

# 安全な製品の売り方

製品を売る会社の中では、どうやって製品の安全を守っているのでしょうか。

## お店での会議「製品を仕入れよう！」

このお店は小さい子どもを連れてお客さんも多く利用するから、子どもが使っても安全な製品を仕入れよう。

お客さんには、安全な製品を買っていただきたいよね。

安い製品の方が売れるから値段も大事だね。

このストーブは、機能はよさそうだけど、安全には気をつけているかな。

かっこいいデザインの製品は売れるんじゃないかな。

安全を表すマークはついているかな。説明書はわかりやすいかな。



## 販売する

【使う人】  
小さな子どもがいるので、安全な製品がほしいわ。

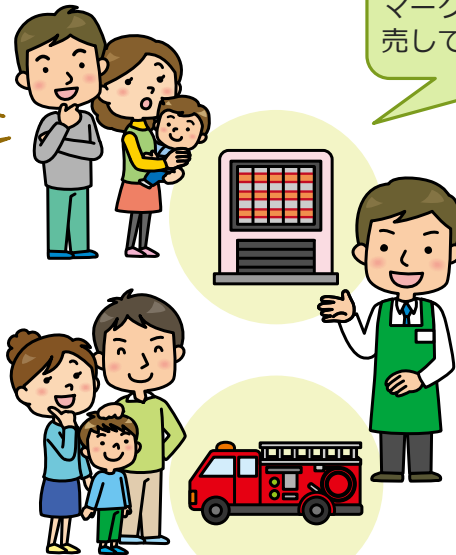
このお店では、安全を表すマークがつけられた製品を販売しています。

【使う人】  
なるべく早く部屋が暖かくなるものがほしいです。

部屋がすぐに暖かくなりますが、この上に洗たく物を干さないでください。

【使う人】  
電池の選び方を教えてください。

製品にあった電池を使ってください。  
古い電池と新しい電池を混ぜて使うのはやめてください。



## 考えてみよう

- ◆ 売る人はどのようなことに気をつけて、製品を仕入れているのでしょうか。
- ◆ 製品を販売するときには、どのようなことを考える必要があるのでしょうか。

# 「製品を使う人」の役割

使う

## 購入する



- 自分や家族にあってる製品であるかを、カタログや「売る人」に聞いて確認します。
- 安全を表す**マーク**（12ページ参照）や**注意表示・警告表示**（11ページ参照）を確認します。

## 使用する



- 使い始める前に、**説明書**を読んで、正しい使い方と、注意することを確認します。
- 正しい使い方を使用します。

## 点検・<sup>はいき</sup>廃棄する

- 定期的に**掃除**や**点検**をします。
- ! 製品には**寿命**があります。変だなと感じたら、「作る人」や「売る人」に相談して点検をしてもらいましょう。
- ! 廃棄するときは、**安全な捨て方**を考えて、ルールを守って正しく廃棄しましょう。

## リコールに協力する

- ! 持っている製品がリコール（15ページ参照）された場合には、「作る人」や「売る人」に連絡するなど、リコールに協力しましょう。

## 「使う人」の役割は？

- 安全な製品を選び、説明書を読んで正しい使い方を使用します。
- 定期的に掃除や点検を行い、必要があれば「作る人」や「売る人」に相談します。

調べてみよう



13ページ『注意表示・警告表示を探そう!』

- ◆ 学校やお家にある製品を使うときに、どのようなことに注意しなければならないか調べてみましょう。

# 正しい製品の買い方・使い方

使う

安全な製品を買って、正しく使うには何に注意すればよいでしょうか。

## お店で選んで購入する

これなら、家族にあっているんじゃないかな？

注意することは書いてあるかな。

安全を表すマークはついているかな。



### 警告

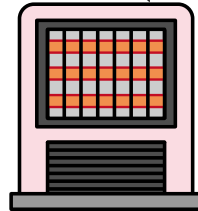
衣類やタオルなどを掛けたり、カーテンなど、燃えやすいものの近くで使用しない。  
(火災の原因)

【売る人】

これは、お子様が小学生以上のご家庭におすすめです。

【売る人】

タオルをかけたりしないでください。カーテンなど、燃えやすいものの近くで使わないでくださいね。



電気ストーブ



## 使いはじめ

どうやって使えばいいのかな。

燃えやすいものの近くにおいてはいけないね。

もし倒れてしまっても、自動的に消えるみたいだね。

説明書に注意することが書いてあるよ。

ここに置くと、水がかかってしまうな。

使わないときは、コンセントをぬいておこう。



## 長く使っていると…

ここにホコリがたまっているね。掃除（そうじ）しておこう。

なんだか、最近、使っていると変な音が聞こえる。

点検してもらおう！

ずいぶん使ったので、そろそろ買い替えよう。















ルールを守って廃棄（はいき）しよう。

## 考えてみよう

- ◆ 新しい製品を買うときには、何に気をつければよいでしょうか。
- ◆ 製品を使うときには、何に気をつければよいでしょうか。

# 警告を表すマークにはいろいろあります

マーク	マークの意味				
	製品を使うときに必ず避けること、守ることを表しています。 危険・損害の程度によって3つにわけて表示されます。 <b>⚠ 危険</b> <b>⚠ 警告</b> <b>⚠ 注意</b>				
<table border="1"> <tr> <td><b>⚠ 危険</b></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>感電するので分解や改造をしない</td> </tr> </table>	<b>⚠ 危険</b>			感電するので分解や改造をしない	<b>危険マーク</b> 誤った取扱いをしたときに、死亡や大けがなどの事故が発生するもの。
<b>⚠ 危険</b>					
	感電するので分解や改造をしない				
<table border="1"> <tr> <td><b>⚠ 警告</b></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>高温の蒸気が出るので顔や手を近づけない</td> </tr> </table>	<b>⚠ 警告</b>			高温の蒸気が出るので顔や手を近づけない	<b>警告マーク</b> 誤った取扱いをしたときに、死亡や大けがなどの事故が発生する可能性があるもの。
<b>⚠ 警告</b>					
	高温の蒸気が出るので顔や手を近づけない				
<table border="1"> <tr> <td><b>⚠ 注意</b></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>発火の原因になるのでコードを強く曲げない</td> </tr> </table>	<b>⚠ 注意</b>			発火の原因になるのでコードを強く曲げない	<b>注意マーク</b> 誤った取扱いをしたときに、けがや周りのモノの損害が発生するもの。
<b>⚠ 注意</b>					
	発火の原因になるのでコードを強く曲げない				

マーク	マークの意味				
	<b>禁止マーク</b> 製品を取扱うときに、してはいけない行為を表しています。				
	<b>指示マーク</b> 製品を取扱うときに、必ず行うことを表しています。				
	<table border="0"> <tr> <td>  <b>【分解禁止】</b>                      製品を分解してはいけません。                 </td> <td>  <b>【接触禁止】</b>                      触ってはいけません。                 </td> </tr> <tr> <td>  <b>【電源プラグを抜く】</b>                      電源プラグをコンセントから抜いてください。                 </td> <td>  <b>【アース接続】</b>                      アース線を必ず接続してください。                 </td> </tr> </table>	 <b>【分解禁止】</b> 製品を分解してはいけません。	 <b>【接触禁止】</b> 触ってはいけません。	 <b>【電源プラグを抜く】</b> 電源プラグをコンセントから抜いてください。	 <b>【アース接続】</b> アース線を必ず接続してください。
 <b>【分解禁止】</b> 製品を分解してはいけません。	 <b>【接触禁止】</b> 触ってはいけません。				
 <b>【電源プラグを抜く】</b> 電源プラグをコンセントから抜いてください。	 <b>【アース接続】</b> アース線を必ず接続してください。				

## もっと調べてみよう

- ◆ どのような製品にマークが表示されているでしょう。
- ◆ 他にはどのようなマークが表示されているでしょう。

# 安全を表すマークにはいろいろあります


マーク	マークの意味
	<p><b>PSEマーク</b>            法律で決まっている安全のきまりを守っている電気製品であることを表しています。            Product (製品) のP、Safety (安全) のS、Electric appliance (電気製品) のEを示しています。</p>
	<p><b>PSCマーク</b>            法律で決まっている安全のきまりを守っている消費生活用の製品であることを表しています。            Product (製品) のP、Safety (安全) のS、Consumer Products (消費者用製品) のCを示しています。</p>
	<p><b>PSTG/PSLPGマーク</b>            法律で決まっている安全のきまりを守っているガス製品であることを表しています。            Product (製品) のP、Safety (安全) のS、Town Gas (都市ガス) のTG、あるいはLiquefied Petroleum Gas (液化石油ガス) のLPGを示しています。</p>
	<p><b>Sマーク</b>            検査機関が検査して、安全性が確認された電気製品であることを表しています。            SはSafety (安全) を示しています。</p>
	<p><b>SGマーク</b>            検査機関が検査して、安全性が確認された乳幼児製品、家具、スポーツ用品等であることを表しています。            Safety (安全) のS、Goods (製品) のGを示しています。</p>
	<p><b>JIA製品認証マーク</b>            検査機関 (JIA) が検査して、安全性が確認された家庭用ガス製品であることを表しています。</p>
	<p><b>BAAマーク</b>            検査機関が検査して、安全性が確認された自転車であることを表しています。            Bicycle Association (自転車協会) のBA、Approved (認めた) のAを示しています。</p>
	<p><b>STマーク</b>            検査機関が検査して、安全性が確認されたおもちゃであることを表しています。            Safety (安全) のS、Toy (おもちゃ) のTを示しています。</p>

## もっと調べてみよう

- ◆ どのような製品にマークが表示されているでしょう。
- ◆ 他にはどのようなマークが表示されているでしょう。


## 注意表示・警告表示を探そう！

作る人は、使うときに注意することを、使う人にわかりやすく伝えます。  
 どのような製品にどのような表示がされているか、調べてみましょう。

表示	製品の種類	注意すること
 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><b>警告</b>                      やけどのおそれあり                      蒸気口に手をふれない</p> </div>	例) 電気すい飯器	例) 蒸気が出るところに手を近づけない。

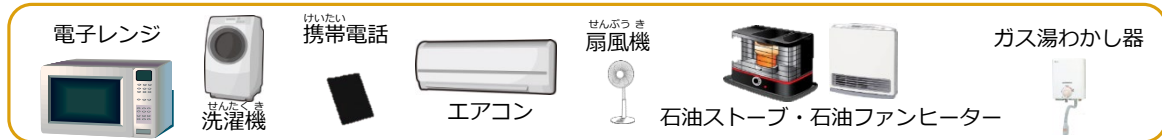
## 安全を表すマークを探そう！

安全な製品には、安全を表すマークがついています。  
 どのような製品にどのようなマークがついているか調べてみましょう。

マーク	ついている製品	マークの意味
	例) 扇風機	例) 安全のきまりを守っている電気製品

## 製品のかくれた危険を探そう！

製品を「使う人」は、製品を正しく使う必要があります。さまざまな製品を使うときに、どのようなことに注意しなければならないか、調べてみましょう。



製品の種類
<ul style="list-style-type: none"> <li>■使うときにどのようなことを気をつければよいでしょうか。</li> <li>■長い間使い続けるとどうなるでしょうか。</li> <li>■おうちでは、正しく使われているでしょうか。</li> </ul>

# お話しを聞こう

「作る人」や「売る人」が、「使う人」に安全に製品を使ってもらうためにどんなことに取り組んでいるかお話しを聞いて考えてみましょう。

<p>お話しをしてくれた人</p>	
Large empty space for notes	

# リコールは事故を防ぐ重要な活動

リコールとは、製品に問題があることがわかったときに、作る人が使う人の安全を守るために、製品の交換や修理をすることです。

リコールするときには、製品の名前、作った年、どのような事故が起こるか、使っている人はどうすればよいかを、新聞やテレビ、ホームページなどでお知らせします。

たくさん作られた製品は、何万台もあるので、全てを交換したり修理したりすることはとても大変なことです。それでも、1台でも残っていたら、事故が起こるかもしれません。

製品を使っている人は、「面倒だから」や「まだ使えるから」などと勝手に判断しないで、作る人や売る人に連絡して回収に協力しましょう。

## ■ どのような製品がリコールされているか調べてみよう

製品の種類	リコールする理由と作る人の対応

### ● リコール情報

経済産業省 リコール情報

[http://www.meti.go.jp/product\\_safety/recall/](http://www.meti.go.jp/product_safety/recall/)

製品評価技術基盤機構（NITE） 社告・リコールの検さく

[http://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/recall\\_new/index4.html](http://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/recall_new/index4.html)

消費者庁 リコール情報検さく

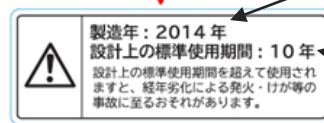
<http://www.recall.go.jp/>

リコール情報は、新聞/チラシ、CM、行政機関やお店にはられているポスターでも確認できます。  
見かけた時には周りの人にも教えてあげましょう。

# 製品には寿命があります

製品には寿命があります。長く使い続けると、事故が起きることもあります。扇風機などの製品には、作った年と安全に使うことができる標準の年数が表示されています。

〔表示ラベル〕 モーターカバー上部



作った年

安全に使うことができる標準的な年数

# 製品には点検も必要です

長く製品を使っていると、ねじがゆるんで外れやすくなったり、小さなヒビが入ったりすることがあります。そのまま使っていると、事故が起こりやすくなります。安全に作られた製品が、今も安全なのかを確認しなければなりません。人間にも定期的な健康診断が必要なように、製品にも定期点検が必要なのです。

## ■ 自宅や親戚の家の製品はどのくらい使っているかな？

押入れにしまったままになっているものなども調べてみましょう。

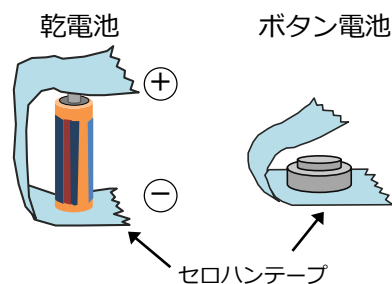
わからなければ、おうちの人に、いつ買ったか聞いてみよう

製品の種類	置いてある場所	作られた時期（年月）

# 安全に廃棄しましょう

製品を廃棄するときは、安全を考えて捨てましょう。捨て方のルールがある場合はルールを守って捨てましょう。

たとえば、電池を廃棄するときは、まちがって電気が流れないように、電池にセロハンテープを貼るなど、安全な捨て方を考えて捨てましょう。



# 学習の復習

## 3者の役割のまとめ

を正しい言葉で埋めてみましょう。

### 「作る人」の役割

する

する

説明する

### 「売る人」の役割

れる

する

販売する






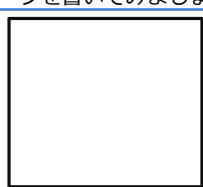

### 「人」の役割

する

使用する

点検・ する

## 注意・安全マークのまとめ

マーク	マークの意味
	<p>注意マーク 製品を使うときに必ず避けること、守ることを表しています。 危険・損害の程度によって3つにわけて表示されます。</p> <p> <input type="text"/>  警告  <input type="text"/></p>
 マークを書いてみましょう	<p>禁止マーク 製品を取扱うときに、してはいけない行為を表しています。</p>
 マークを書いてみましょう	<p>指示マーク 製品を取扱うときに、必ず行うことを表しています。</p>
	<p>PSEマーク <input type="text"/> で決まっている安全のきまりを守っている <input type="text"/> であることを表しています。 Product (製品) のP、Safety (安全) のS、Electric appliance (電気製品) のEを示しています。</p>

# もっと調べたいときは

- **経済産業省 製品安全ガイド**  
[http://www.meti.go.jp/product\\_safety/consumer/kids/01.html](http://www.meti.go.jp/product_safety/consumer/kids/01.html)
  
- **製品事故情報を調べたいときは**
  - 経済産業省 製品事故の検さく  
[http://www.meti.go.jp/product\\_safety/kensaku/index.html](http://www.meti.go.jp/product_safety/kensaku/index.html)
  
  - 製品評価技術基盤機構（NITE）事故情報の検さく  
<http://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/search/index.html>
  
  - 消費者庁 事故情報データベースシステム  
[http://www.jikojoho.go.jp/ai\\_national/](http://www.jikojoho.go.jp/ai_national/)
  
- **リコール情報を調べたいときは**
  - 経済産業省 リコール情報  
[http://www.meti.go.jp/product\\_safety/recall/index.html](http://www.meti.go.jp/product_safety/recall/index.html)
  
  - 製品評価技術基盤機構（NITE）社告・リコールの検さく  
<http://www.jiko.nite.go.jp/php/shakoku/search/index.php>
  
  - 消費者庁 リコール情報検さく  
<http://www.recall.go.jp/>
  
- **製品の安全情報を調べたいときは**
  - 製品評価技術基盤機構（NITE） 事故情報 ミニポスター（一部動画付）  
<http://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/poster/index.html>
  
  - 家電製品協会 家電製品の安全性  
<http://www.aeha.or.jp/information/safety/>
  
  - 日本ガス石油機器工業会  
 ガス機器の安全  
<http://www.jgka.or.jp/consumer/gasu-riyou/>  
 石油機器の安全  
<http://www.jgka.or.jp/consumer/sekiyu-riyou/>

# 学習のまとめ

学習を通じて学んだことを書きましょう。製品を安全に使っていくために、家族や友達にアドバイスすることも書きましょう。

## 製品安全リーダーチェックリスト

身の回りの製品をチェックしましょう。日ごろからやっているものは「やっている」に、これからやるものには「これから」に○をつけましょう。すべての項目に○がつけば、あなたも製品安全リーダーです！

チェック項目	やっている	これから
身の回りの製品で、おうちの人と安全を表すマークや注意表示・警告表示を見つけましたか。		
製品を買うときに、何を注意すればよいのか、おうちの人と話しましたか。		
いろいろな製品の正しい使い方を知り、おうちの人と正しく使うことを心がけていますか。		
おうちの人と一緒に、身の回りの製品の掃除（そうじ）や点検をしていますか。		
使わなくなった製品は、おうちの人とルールを守って廃棄（はいき）していますか。		

## 身の回りの製品で困ったことがあったら

おうちの人に相談し、もし製品に問題があれば、その製品を買ったお店や、作った会社に連絡してもらいましょう。